

## HRTに用いられるおもな女性ホルモン製剤

女性ホルモンの種類	投与経路	剤形	有効成分	製品名	投与量
エストロゲン製剤	経口	錠剤	結合型エストロゲン	プレマリン錠 0.625mg	0.625mg (通常量)
			17β・エストラジオール	ジュリナ錠 0.5mg	0.5mg (低用量) ～1.0mg (通常量)
			エストリオール	エストリール錠 1mg ホーリン錠 1mg	1.0mg を一日1～2回 (通常使用量)
	経皮	貼付剤	17β・エストラジオール	エストラーナテープ 0.72mg	2日毎に貼付 (通常量)
				フェミエスト 2.17mg	2回/週 (低用量)
				フェミエスト 4.33mg	2回/週 (通常量)
		ゲル剤	17β・エストラジオール	ル・エストロジェル 0.06% (保険適応なし)	2プッシュ (1.08mg 通常量)
				ディビゲル 1mg	1mg (通常量)
エストロゲン・黄体ホルモン配合剤	経口	錠剤	17β・エストラジオール レボノルゲステレル	ウェールナラ配合剤 (閉経後骨粗鬆症のみ保険適用)	エストラジオール 1.0mg レボノルゲステレル 0.04mg (通常量)
	経皮	貼付剤	17β・エストラジオール 酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ	(含有量) エストラジオール 0.62mg 酢酸ノルエチステロン 2.70mg 2回/週 (通常量)
黄体ホルモン製剤	経口	錠剤	酢酸メドロキシプロゲステロン	プロベラ錠	2.5mg (持続的併用投与時)
				ヒスロン錠 5	5～10mg (周期的併用投与時)

社団法人 日本産婦人科医会

平成22年3月

～本リーフレットを診療机等に常備され、患者さんへの説明の際にご利用ください。～

[女性保健委員会、女性保健部会]

(A面)

## ホルモン補充療法（HRT）の実際

### 1 ホルモン補充療法とはどのようなものですか？

50歳ごろに迎える閉経をはさんだ前後約10年間は更年期です。この期間におこる心身のさまざまな不調が「更年期障害」で、主にエストロゲンの急激な減少によるものです。ホルモン補充療法とはエストロゲンを補うことで、これらの身体的・精神的な症状を改善する治療法のことです。

### 2 ホルモン補充療法で改善されるおもな症状

- ・さまざまな不定愁訴症状（のぼせ、ほてり、発汗や動悸など、憂うつになったり、怒りっぽくなったりイライラしたりする症状）
- ・萎縮性膀胱炎や性交時の痛み、頻尿、尿失禁などの泌尿器症状
- ・高脂血症（脂質異常症）
- ・骨粗鬆症

### 3 ホルモン補充療法の副作用はありますか？

治療開始初期に乳房や下腹部のはり、不正性器出血がおきることがありますが、しばらくすると軽くなることが多い症状です。ホルモンによる症状なので心配はありませんが、投与方法や量の変更をする場合もあります。

### 4 ホルモン剤を使うとがん（乳がん、子宮がんなど）になりやすいと聞いたのですが？

子宮がんのうち、子宮体がんはホルモンとの関連があり、エストロゲン単独使用では子宮体がんの発症率が高まりますが、黄体ホルモンを併用すると子宮体がんの発症率は上昇しません。

乳がんについては、ホルモン補充療法を5年以上継続した人は治療しなかった人に比べて少し増えますが、乳がんによる死亡率は変わらないといわれています。

いずれにしても治療の有無にかかわらず、子宮がん、乳がんは年に一度検診を受けておくことが重要です。

### 5 ホルモン補充療法はいつから始めて、どのくらい続けるのですか？

閉経前後で不定愁訴などの更年期症状がつかなく、日常生活にさしつかえるような時はホルモン補充療法を試みることも一つの方法です。動脈硬化症を抑えるためには、閉経後できるだけ早く始めた方がよいといわれています。また5年ぐらいたん安に続けますが、やめるときは急に中止すると症状がぶり返すことがありますので、徐々に減らす場合もあります。

(B面)

### ホルモン剤の投与例

エストロゲン  
(経口、パッチ、ゲル)

黄体ホルモン  
(経口)

エストロゲン・黄体ホルモン配合剤  
(経口、パッチ)

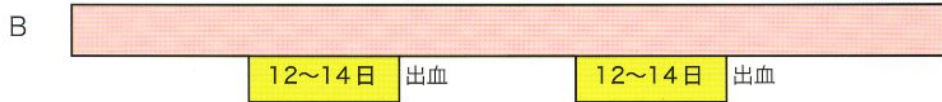
#### エストロゲン・黄体ホルモン併用療法

1) 周期的併用法 (おもに閉経前後の女性に用います)

(1) 間欠法



(2) 持続法



2) 持続的併用法 (おもに閉経後数年たった女性に用います)

3~6ヵ月間は性器出血をみることがあります)

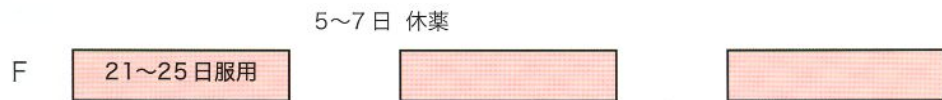


#### エストロゲン単独療法 (おもに子宮を摘出した人に用います)

1) 持続的投与法



2) 間欠的投与法



あなたの投与法は

A B C D E F です

使用薬剤名 エストロゲン製剤

黄体ホルモン製剤

## HRTの禁忌症例と慎重投与例

禁忌症例	・ 重度の活動性肝疾患
	・ 現在の乳がんとその既往
	・ 現在の子宮体がん、低悪性度子宮内膜間質肉腫
	・ 原因不明の不正性器出血
	・ 妊娠が疑われる場合
	・ 急性血栓性静脈炎または血栓塞栓症とその既往
	・ 冠動脈疾患既往者
	・ 脳卒中既往者

慎重投与 ないしは 条件付き で投与が 可能な症例	・ 子宮体がんの既往
	・ 卵巣がんの既往者
	・ 肥満者
	・ 60歳以上の新規投与
	・ 血栓症のリスクを有する症例
	・ 慢性肝疾患
	・ 胆のう炎および胆石症の既往者
	・ 重症の家族性高トリグリセリド血症
	・ コントロール不良な糖尿病
	・ コントロール不良な高血圧
	・ 子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症の既往者
	・ 片頭痛
	・ てんかん
	・ 急性ポルフィリン血症

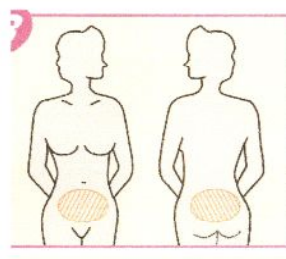
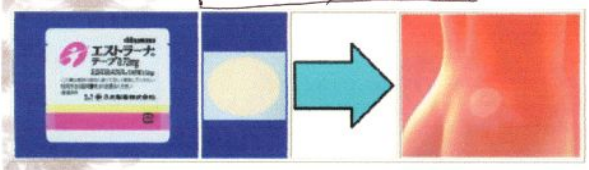
(出典：ホルモン補充療法ガイドライン、2009)

I. 飲み薬(主な内服薬) プレマリン錠 ジュレナ錠 **ホルモン補充療法** ]

エストロゲン	黄体ホルモン
 プレマリン錠 0.625mg 10.3×5.9 糖衣錠	 プロベラ 6.5×2.8 裸錠
 エストリール錠 8.0×3.0 素錠	

エストロゲン(プレマリン)は毎日服用  
 黄体ホルモン(プロベラ)は、月に10日のみ  
 (乳がん、子宮体がんの予防)

II. 貼り薬(パッチ) エストラーナテープ



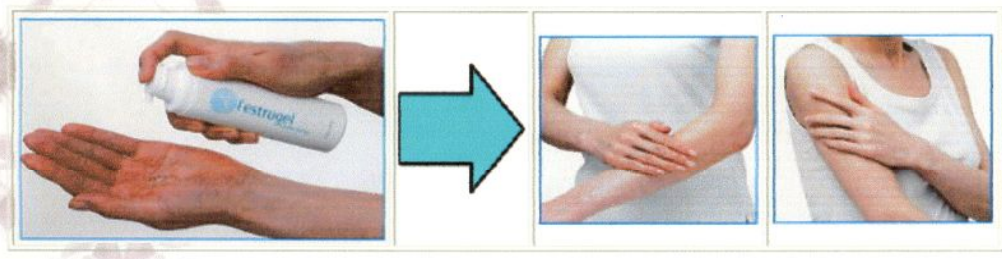
**体に貼り、押さえる**  
 薬を下腹部または背部のいずれかに1枚貼り、薬のフタが浮かないよう手のひら全体でしっかりと押えてください。

- ① ベルトなどが当たる場所は避けてください。
- ② 胸部には貼らないでください。
- ③ 傷や皮膚病のある場所には貼らないでください。

経皮吸収エストラジオール製剤が特に望ましい症例は、  
 経皮吸収エストラジオール製剤はLDL-CとTG(トリグリセリド 中性脂肪)の両方を低下させることから、  
 更年期症状を有するメタボリック・シンドローム(肥満・耐糖能異常・高TG血症・低HDL-C血症・高血圧の3つ以上を合併)の女性に対しての利点があると考えられております。  
 このことは、経口剤ではTGが上昇することが有るのに対して、経皮吸収製剤においては有意な低下が認められることである。  
 また経皮吸収製剤は心筋梗塞や脳卒中と関連している炎症マーカーCRP(C反応性蛋白)に対して、悪影響を与えない、むしろ有意に低下させると報告されております。  
 更年期年齢の女性に推奨される剤形と思われま。

2日に1回貼りかえ  
 入浴時は、貼ったまま

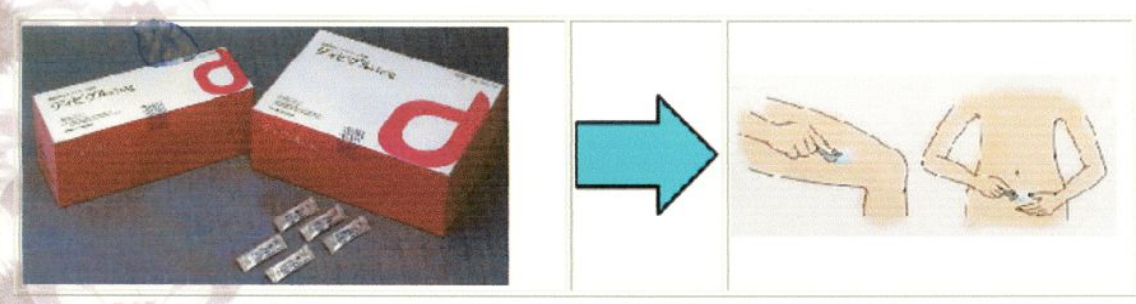
● ル・エストロジェル0.06% 91ルエストロジェル(保険適用あり)  
 毎日入浴後に塗布



● デイゼゲル1mg デイゼゲル(保険適用あり)

近年注目されているエストラジオールを有効成分とする経皮吸収型(ゲルタイプ)のHRT製剤です。  
 効能・効果: 更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush及び発汗)。  
 1日1回左右いずれかの大腿部もしくは下腹部に塗布します。  
 塗布後皮膚からの吸収は速やかで、数分以内に乾き、使用法が簡便です。  
 皮膚刺激性反応は貼付剤に比べ少ない。  
 2007年11月発売、薬価基準収載がなされており、有用な薬剤として期待される。

毎日入浴後に塗布





# エストラーナ®の使い方

この薬は皮膚から吸収される更年期障害の薬です。  
あらかじめ貼る場所をよく拭いて、  
水分や汗を十分に取り除いてください。  
また、この薬は2日に1回貼りかえてください。

医師の指示に従って  
使用してください。

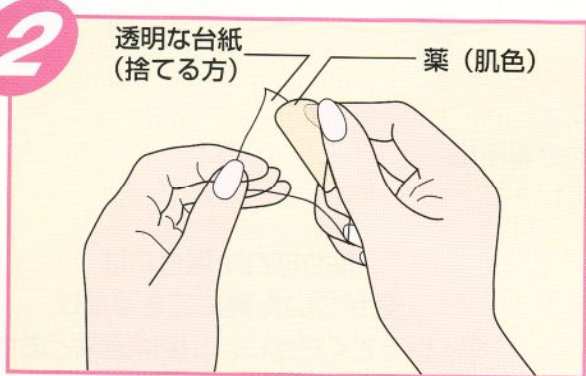
この薬は貼り薬です。袋の中に薬が1枚ずつ入っています。



## 1 薬剤を取り出す

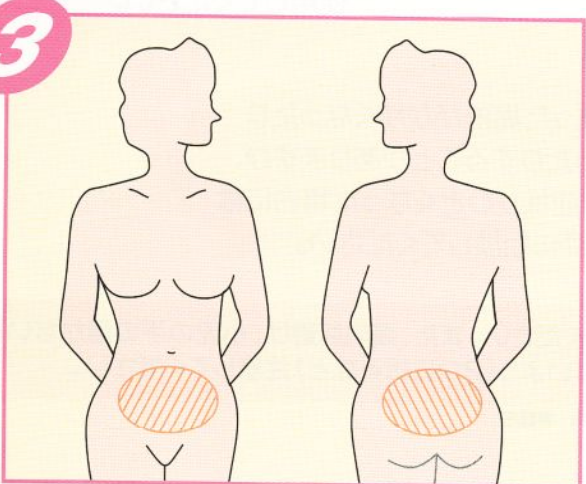
切り込み線に沿って、薬袋を手で開封し、薬剤を取りだします。

❗ 中の薬にキズをつけるので、ハサミは使用しないでください。



## 2 台紙から薬剤をはがす

薬には透明なかたい台紙が付いていますので、貼る前にこの台紙を取りはずします。丸いほうが薬剤です。



## 3 体に貼り、押さえる

薬を下腹部または臀部のいずれかに1枚貼り、薬のフチが浮かないよう手のひら全体でしっかりと押えてください。

- ❗ ベルトなどがあたる場所は避けてください。
- ❗ 胸部には貼らないでください。
- ❗ 傷や皮膚病のある場所には貼らないでください。

Hisamitsu

久光製薬